

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	言語情報処理特論		
英文授業科目名	Topics in Human Language Processing		
開講年度	2004年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	廣瀬 友紀		
居室	東1-803		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hirose@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>言葉（自然言語）を聞いたり読んだりして理解するという人間の営みは、それがなぜ可能なのかということに改めて考え及ばないほど自然な、自動的なものに思える。この授業では、人間の言語情報処理のしくみについて、理論的検討を経て得られる仮説を、実験や調査をとおして検証するという方法論を中心に検討する。言語処理と一口にいっても、音声、語彙、統語、意味、文脈などの様々なレベルの情報の処理が関わってくる。この授業ではそれらの概観を行いつつ、主に構文レベルの情報処理について中心的に取り扱う。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
上級科目 対照文法論 言語科学論

【教科書等】
授業にて指示

【授業内容とその進め方】
<p>上記のような主題・目標を念頭に授業を行い、各自が具体的なテーマを設定できるようなら、それぞれのテーマに沿った研究を行ってもらおうとよいが、今年の時点ではこの授業は学部の専門科目と連動していないため、概論的な位置づけの授業となるかもしれない。実際の履修学生と相談をしながら、具体的な授業内容について検討することになる。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【成績評価方法および評価基準】

授業内外の課題（レポート・発表 等）および授業への貢献を総合評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

随時

【学生へのメッセージ】

この授業の主題は、人間の自然言語情報処理のしくみについて知ることであり、一般的に認知心理学、心理言語学などの分野に分類されている。一方、計算機に人間の言語をどのように処理させることが可能であろうか、という（計算機による）自然言語処理研究の昨今の成果についても授業中に一部触れることもあるかもしれないが、むしろそういった方面に興味の中心がある学生は、情報工学専攻の「言語工学特論」や、情報通信工学専攻の「音声言語処理特論」などを（併せて）履修するとよい。